

渋谷区 発・紙リサイクル共創モデル実験

「啓発」を通じた首都圏の広域連携を目指して

～地域循環共生社会づくり～



要・ロゴ使用許可申請

全国製紙原料商工組合連合会

公益財団法人古紙再生促進センター



2026年3月

目次

- ① 当センターの啓発活動にあたって
- ② 啓発活動のストーリーイメージ
- ③ 渋谷区の強みを生かした地域循環共生モデル
- ④ 渋谷区 環境基本計画 等との親和性
- ⑤ 啓発活動の多様な協働体制イメージ
- ⑥ 啓発活動イメージ「雑がみさまを探せ！」を軸に
- ⑦ 期待される成果イメージ
- ⑧ 本提案への思い

(参考)

- ・ 紙リサイクルの重要性
- ・ 紙リサイクルとSDGs
- ・ Towards 2030 & Beyond ・ 古紙センターPDCA
- ・ 今後の啓発活動、検討について「事例イメージ案」

1. 当センターの啓発活動にあたって

全国の製紙会社、古紙問屋、商社等により形成される「**公益財団法人 古紙再生促進センター**」は創立来、半世紀に亘り、紙リサイクルに関わる多くの方々に支えられ、資源の有効利用や廃棄物の減量化、SDGs推進といった循環型社会の形成の一翼を担ってまいりました。

現在、**当センター**は各地で地域循環共生社会づくりモデルを目指し、**雑がみを含む紙資源の掘り起こしによる可燃ごみ削減**と、**市民参加型**の資源循環の可視化を通じた**行動変容の仕組みづくり**に取り組んでいます。

渋谷区におかれては、従来より紙ごみの削減に真摯に取り組まれ、資源が循環し続ける都市をビジョンとし、環境学習や市民協働による分別支援など、**先進的な試みが着実に積み重ねられている**ことを理解しており、敬意を表する次第です。

当センターは**公益財団法人としての中立性**と民間的な柔軟さを生かし、**既存の取り組みを補完**しながら、市民や学校、地域団体、事業者など多様な主体がさらに参画しやすい形で雑がみの資源化の輪を広げる**啓発のパートナー**としてお役に立ちたいと考えております。

行政が基盤を整え、地域が主体的に動くという**渋谷区**のスタイルは、**地域循環共生社会の先進モデル**として誇るべきものであり、当センターは啓発活動のお手伝いを通じて、更にその歩みが進むことに繋がれば幸いです。

2. 啓発活動のストーリーイメージ

資源循環を共創の中核主体として、雑がみ回収・利用を地域コミュニティに根付かせる。

多様な生活者・事業者・行政を結び、その成果と意義を可視化・共有することで、持続可能な地域共生圏の形成を目指す。

3つの軸を有機的に構造化する。

(1) 「見える化」×「つながる化」

自治体や企業、団体との共創事例を公開し、「つながり」の存在を社会に共有。

(2) 参加共感型コミュニケーション

情報の一方通行脱却「わかる・できる・続ける」体験を設計。

(3) 地域コミュニティ内経済・価値の共創

地域の循環共生圏、地域経済や自治体の課題解決と一体化するメッセージを意識。



2. 啓発活動のストーリーイメージ

「対話の入り口を」「社会参加の回路を」「無関心層への感性を」「行動の選択肢を」

- ① 子どもに：「気づく」ことが遊びになる仕掛けを
- ② 学生に：「地域の未来」に自らを接続する入り口を
- ③ 地域に：「紙ごみ」が「対話の起点」に変わる構造を
- ④ 企業に：「紙」という資源を「物語」と共に届ける機会を
- ⑤ 自治体に：「ごみ政策」を「地域文化政策」へと深化させる対話を
- ⑥ シニア世代に：「伝承者」「支える側」としての位置づけを
- ⑦ 外国人居住者に：「文化と言語の壁」を越える暮らし直結型の支援を

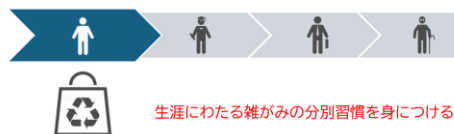
「啓発」は社会と未来への関与。紙リサイクルは単なる環境保護や分別行動ではない。

人・地域・企業・行政が、持続可能な未来に向けて協調的に関与する社会行動。
「地域共創の繋ぎ手」として社会に根づかせる存在でありたい。

2. 啓発活動のストーリーイメージ 雑がみさまを探せ！ (雑がみ回収促進社会実験)

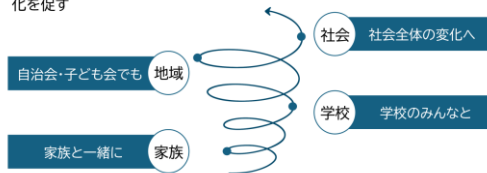
目的

雑がみの認知度向上並びに分別・回収の習慣づけを目的とした啓発活動
⇒ 幼少期(学童期)からの分別習慣の効果は大きく、未来にわたって環境配慮
行動を行う人材育成につながる



目的

子どもを発信源として家族と一緒に取り組むことで、同居する親世代の意識変化を促す



「子どもを変えていくことで親を変え、社会を変えていく」

効果(自治体・業界)

可燃ごみに捨てられる雑がみ回収促進を進めることで、可燃ごみの削減や新たな製紙原料の確保につながる



「雑がみさまを探せ！」は、いかにして子供たちに家庭での雑がみ分別に誘導するかを、**大阪大学大学院経済学研究科・松村真宏教授(仕掛け)**と当センターが連携する新たな試み。

仕掛けのアプローチとは、正論(従来の正攻法)で解決しなかった社会課題を正論は使わずに参加者(小学生)が興味を持ちそうな「仕掛け」を利用することで、結果的に望ましい行動を実現し、その後も親世代を絡めて、家族で継続しやすい仕掛けを狙う。

子供達への「仕掛け」コンセプト
紙＝カミ(神) ⇒ 家庭の中には、神(紙)様・「雑がみさま」が宿っている。



表面



裏面



一般向け

2. 啓発活動のストーリーイメージ 雑がみさまを探せ！ （雑がみ回収促進社会実験）

啓発資材一覧（古紙再生促進センターが全て準備）



啓発チラシ



啓発袋



啓発パネル



のぼり旗



ロールアップバナー



ビブス



バルーン



テーブルクロス

啓発資材使用イメージ



2. 啓発活動のストーリーイメージ 雑がみさまを探せ！ （雑がみ回収促進社会実験）

雑がみさまを探せ！ 学校で実施の様子



参加いただいた児童には、夏休み期間に家庭で雑がみを探し出してもらい、夏休み明けに持参いただき回収を行いました

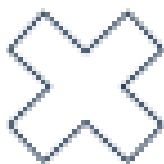


荒川区での事例報道
(TCN・東京ケーブルネットワーク)
8分16秒から

2. 啓発活動のストーリーイメージ 雑がみさまを探せ！（雑がみ回収促進社会実験）

キャラクター コラボレーションイメージ

全国各自治体との可燃ごみ削減・雑がみ啓発連携に向けた
キャラクターコラボレーション検討



古紙再生促進センター
雑がみ回収促進・社会実験キャラクター(2025年)

3. 渋谷区の強みを生かした地域循環共生モデル

都市構造との整合

事業系活動が集積し、可燃ごみに紙類が含まれやすい都市構造。本モデルは可燃ごみ削減を入口に、既存の排出構造を前提としつつ、雑がみを資源として位置づけ直す点で整合性がある。

多様な主体を想定

居住者、就業者、来街者が混在する自治体である。本モデルは単一の対象に限定せず、家庭系・事業系・来街者由来の排出を想定しており、都市特性に対応しやすい。

既存施策との連動

区が進めのごみ減量、分別徹底、環境啓発施策と、本モデルは目的や方向性が重なる。本モデルは新たな制度創設に偏らず、既存施策の延長線で位置づけやすい。

都市運営との親和

持続可能な都市運営の考え方に対し、本モデルは資源循環を静脈側から補完する位置づけを持つ。都市機能を維持しながら可燃ごみ削減を支える点で親和性がある。



集う力で循環を生む、渋谷区

渋谷区は、商業・業務・居住が近接し、昼夜人口差が大きい都心型自治体である。この特性は、家庭系に加えて事業系の可燃ごみが発生しやすく、紙類が可燃側に入り込む余地が生じやすいことを示す。本モデルは、可燃ごみ削減を入口に、雑がみを資源として扱う考え方を関係者間で共有し、啓発の機会づくりを通じて協力を得る枠組みである。

商業施設、オフィス、学校、地域団体、イベント運営者など多様な主体が存在し、連携先は多様。区内の既存施策と並走させながら、無理のない範囲で雑がみ分別の定着を図る位置づけが可能となる。対象や場面に応じて情報提供の形を選べば、来街者や外国人居住者にも配慮できる。周知と運用の工夫で進め、継続的な取組として位置づけられる。

新規設備や格段の追加投資を前提とするのではなく、すでに地元地域が有する地域資源、制度、ネットワークを最大限活用しながら、段階的かつ持続可能に展開する「**啓発モデル**」を可視化する余地がある。

4. 渋谷区 環境基本計画 等との親和性（2023～2027）

ライフスタイルと資源循環

基本計画は、都心型ライフスタイルに即した行動変容を重視し、日常行動の積み重ねによる環境負荷低減を掲げる。本モデルは、可燃ごみに含まれる雑がみを可視化し、市民・事業者の分別行動を具体的に変える仕組みを提供する点で一致する。都市生活の中で「捨て方」を変えるというアプローチは、計画理念の実践モデルとなり得る。

可燃ごみ削減と焼却依存低減

同計画は、ごみ総量削減と焼却負荷の抑制を重要課題として位置づける。本モデルは、可燃ごみ中の紙資源を分別回収へ誘導することで、焼却量削減へ寄与し得る。設備更新や処理能力拡張に依存せず、市民・事業者の協力で成果を積み上げる点が、計画の持続可能性志向と親和性がある。

多主体協働・共創の推進

同計画は、行政単独ではなく、市民・企業・大学・NPOとの共創を前提とする。本モデルは、学校教育、企業研修、地域イベントと連動した啓発展開を想定し、協定・連携事業として発展可能である。共創を「仕組み」として定着させる点で、計画の実装フェーズを支える。

環境教育・次世代育成

同計画は、次世代への環境教育を重要施策に位置づける。雑がみ掘り起こしは、身近で理解しやすく、学校・若年層向け教材として活用しやすい。本モデルは、体験型学習や啓発コンテンツを通じ、計画が目指す「学びから行動へ」の流れを具体化する。



5. 啓発活動の多様な協働体制イメージ

行政

各自治体（資源リサイクル関連、福祉、教育委員会 等）：施策調整、拠点整備、学校授業導入、公益施設運営

企業・商工会

スーパー、包装印刷、食品、信金、運輸等：店頭広報、ポイント制度連携、雑がみ袋広告、事業系雑がみ回収、SCCI連携

静脈・製紙産業

広域エリア内の製紙工場、古紙問屋、回収収集業者：雑がみ受入、回収・品質管理、搬送

教育機関

小中高、大学、EMS活動、新入生環境授業、ボランティア活動、PBL型地域参加

市民団体

PTA、NPO、環境ボランティア：地域拠点協力、イベント運営、住民啓発

スポーツ団体 （少年・プロ・アマ）

各種のスポーツ少年団体、地域に根差すスポーツチーム：集団回収、資源回収協力、啓発活動、保護者との家庭連携

福祉・高齢者団体

就労支援B型事業所、社会福祉協議会、老人クラブ等：拠点運営補助、見守り交流

メディア・研究機関

新聞社、TV、SNS、大学研究室等：広報支援、効果測定、展開モデル評価

需給両業界団体

古紙センター関東地区委員会、関東製紙原料商工組合、東京都リサイクル事業協会、東京都資源回収事業協同組合等：活動全般支援

6. 啓発活動イメージ「雑がみ様を探せ！」を軸に（2026年度～）

雑がみ啓発と学校教育との接続

区内小中学校において紙リサイクルに関する啓発活動「雑がみさまを探せ！」を通じた出前授業やワークショップを実施。
「子供から家庭を変える、社会を変える」
児童生徒や保護者の家庭内分別を促進。

広域エリア内の製紙工場群との連携

首都圏・関東圏域内には紙リサイクルの地域内処理・利用が可能な製紙工場の存在があり、それらとの連携を通じた、紙資源リサイクルの地産地消を更に推進。

スポーツ団体との連携

スポーツ少年団の資源回収活動協力、運動と公共活動の融合を図る。集団回収活動の活性化、世代間交流の機会にも繋げる。また域内の各プロ・アマ球技チームとの連携を通じ、試合時の「雑がみさまを探せ！」啓発キャンペーンを図る。

市イベント・施設に於ける啓発活動

多くの区民が参加する市民イベント、祭り、環境フェアやリサイクルプラザ、公民館などを通じた「雑がみさまを探せ！」啓発を通じ、一人ひとりの参画意識醸成を図る。

大学生ボランティアとの連携

区内の大学や環境活動団体などを通じた、学生を募集、「雑がみさまを探せ！」運動の支援を通じた持続的な啓発活動の組織力強化、学生自身への社会課題解決体験のきっかけとする。

地元企業との連携による資源循環

大規模商業施設、商店街店舗を通じた、地域ポイント利用・認証制度利用による消費者との接点強化を模索。企業の紙袋への「雑がみ回収に利用」を訴求する表示協力。

7. 期待される成果・イメージ例（他地区）

- ・ 雑がみ回収量の増加、可燃ごみに占める紙ごみ比率減少
- ・ 紙ごみによるCO2排出削減効果の定量化
- ・ 域内製紙工場とのマッチングによる資源地産地消モデルの加速
- ・ 小中高校生・大学生・高齢者・地域住民のリサイクル意識向上と世代間交流の促進
- ・ 高齢者との交流機会創出による地域コミュニティの活性化、孤立防止
- ・ 障害者の地域参画による共生社会モデルの実証と福祉的就労の場の創出
- ・ 学生を通じた紙リサイクル業界における次世代の理解者の掘り起こしと職業理解の深化
- ・ 行政・住民・業界がともに成果を実感できる、参加型の循環型地域社会モデルの形成
- ・ 近隣自治体、更に全国への波及効果 等々

↓ 5%

燃えるごみ量削減

「雑がみさまを探せ！」
を通じた分別底上げ

↓ 5%

ごみ排出量削減

1人1日当たりの
ごみ排出量削減

↓ 10%

紙ごみ比率減少

家庭系の燃えるごみに
占める紙ごみの比率減少

2000+

啓発参加者数

多世代の市民参加による
コミュニティ活性化

8. 本提案への思い

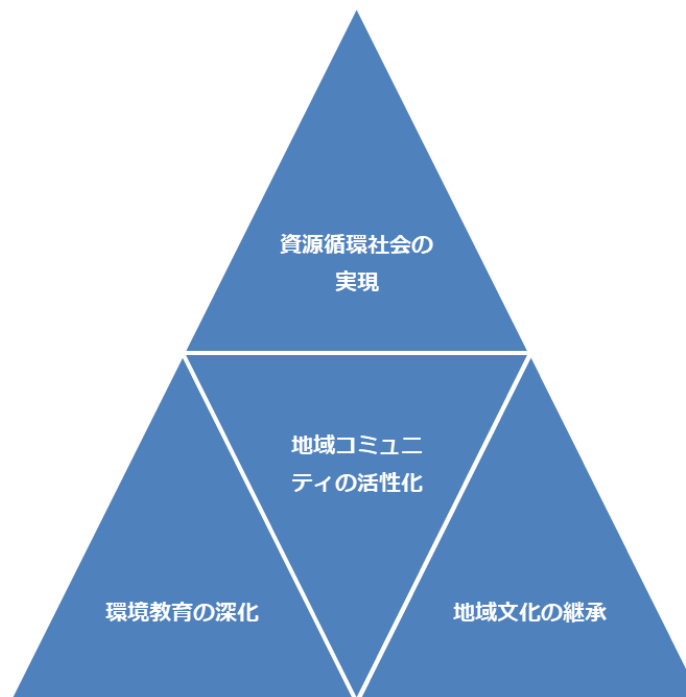
これら一連の思いは、「先進的な施策を展開」してきた**渋谷区**において、**すでに個別に推進されてきた**要素である。

今回の**啓発活動提案**は、それらを有機的に結合し、回収・啓発・再資源化・教育・経済の各分野が一体的に連動する**“リサイクルの輪”**として、**視覚的・体感的に可視化される仕組みづくり推進**のお手伝い。

これにより、市民一人ひとりが**自分事として、地域循環への参画を一層、理解・実感**でき、長年積み重ねてきた資源循環の取り組みが、より広く認知され、成果として花開くことが望まれる。

環境先進都市である渋谷区において、紙ごみを中心とした可燃ごみ削減の実践は、持続可能なまちづくりの成果指標とも直結するものであり、**地方自治体の環境政策の模範事例**として、他自治体に発信されることを期待する。

（参考）紙リサイクルの重要性



紙リサイクル、とりわけ家庭や地域から排出される「雑がみ」は、その性質上、行政・業者・市民の協働によってのみ更なる分別と回収が可能となる分野。

また、資源循環・地域交流・環境教育・福祉・社会包摂といった複数の公共的価値を同時に実現できる特性を持ち、地域循環共生社会の実装モデルとして即効性が期待される領域。

(参考) 紙リサイクルと SDGs

SDGs・紙のリサイクルが果たすべき役割

(2022年制定)



4 質の高い教育をみんなに

■紙のリサイクルの役割

⇒紙の再生品の利用、リサイクルを学べる教育の機会を提供する



11 住み続けられるまちづくりを

■紙のリサイクルの役割

⇒使用済の紙を分別して再利用を図り、資源の有効活用を図る



12 つくる責任 つかう責任

■紙のリサイクルの役割

⇒製紙業界のリサイクル可能な商品開発の推進に貢献する
⇒消費者の持続可能な社会形成への参画意識を醸成する



13 気候変動に具体的な対策を

■紙のリサイクルの役割

⇒ごみの資源化による脱炭素社会の実現に貢献する



15 陸の豊かさも守ろう

■紙のリサイクルの役割

⇒森林資源の持続可能な利用に貢献する



17 パートナリシップで目標を達成しよう

■紙のリサイクルの役割

⇒多様なステークホルダーが連携し、持続可能な社会を実現する

日本の紙リサイクルは国民の分別意識の高さや善意に支えられ、また長年にわたる関係者の努力の結果、資源の有効利用や廃棄物の減量化といった循環型社会の形成にも大切な役割を果たしてきた。

当センターは、消費者や事業者を始めとした紙リサイクルに関わる多様なステークホルダーの皆様とともに、広報啓発、調査研究等の事業を通じた古紙の回収や利用の促進に向けた約半世紀の歴史を積み重ねている。

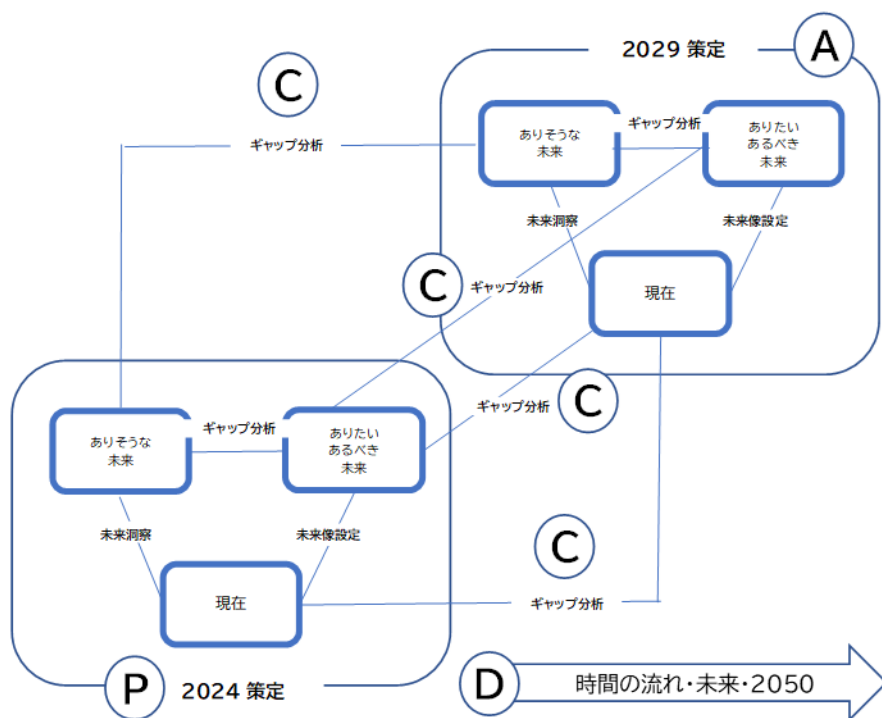
時代背景や社会が変化してきた現在も変わらず、むしろ様々な社会課題が深刻化し、国際社会がSDGs（持続可能な開発目標）の達成など持続可能な社会の実現を目指す中、原点に立ち返ったセンター活動がより一層重要になると考える。

当センターは創立半世紀の節目に向け、活動を支えていただいている皆様とともに、まずは紙リサイクルとSDGsとの関連性を再確認することを2022年にスタートした。今後も多様な立場の方々との共通言語ともいえるSDGsを通じて、小さな連携の積み重ねを大きな力に繋げ、紙リサイクルの更なる発展を目指す。



(古紙センターSDGsレポート)

(参考) Towards 2030 & Beyond・古紙再生促進センターPDCA



当センターは創立半世紀を迎えたが、その節目に当たり多くの関係者の方々から寄せられた「20」の中長期課題（サステナブルチャレンジ2050・共創共生）をお示しした。本年度から、一連の課題対応に向けての具体的な対策や、新たな試みを開始するに当たり、ロードマップイメージである「Towards 2030 & Beyond」を策定した。

様々な社会課題解決に向けた布石は2030年までがラストチャンスであり、その影響が未来の可能性を左右すると言われる時代にある中で、環境・経済・社会側面の統合的向上や、リサイクルに関わるマルチステークホルダーとのパートナーシップを念頭に置いた事業を通じて、循環型社会形成に関する連携・協働のつなぎ手としての、更なる努力が当センターにも求められている。

今後の課題対応については需給両業界の協働に加えて、これまで以上に広く、紙リサイクルに関わるステークホルダーが、改善できる技術や意識改革を総動員した、統合的なシナジーや全体最適を議論すべき時期にある。



「サステナブルチャレンジ 2050・共創共生」



「Towards 2030 & Beyond」



「創立 50 周年記念誌」

(参考) 今後の啓発活動・検討についての「事例イメージ案」 (順不同)

本モデルの定着化に向けた**啓発実験事業** 「雑がみさまを探せ！」を軸に (2026年～)

- ・区内大学生の啓発ボランティア確保
青山学院大学、國學院大学、実践女子大学・短期大学等の啓発ボランティア確保。
「雑がみさまを探せ！」支援を通じた、継続・持続的な啓発組織力強化、学生自身の社会課題、解決体験のきっかけとする試み。センター検討中の大学生「紙リサイクルアンバサダー制度」との連携。
- ・各大学EMS、SDGs活動連携
新入生への啓発授業機会、学園祭でのブース出展、継続的な啓発掲示
- ・渋谷区との啓発活動・協定締結。SDGs推進プラットフォーム、パートナーシップ、環境団体連絡会との啓発連携、同区と地域連携協定締結中の区内大学との組織連携検討
- ・渋谷区と脱炭素や地域活性化を目指した、連携協定を有する企業との啓発キャンペーン連携、大手企業、大規模オフィス管理会社、不動産事業者との連携
- ・諸環境推進団体、支所・公民館等の「雑がみさまを探せ！」啓発、団体連携、キャラクターコラボレーション
- ・区内のSDGs・環境フォーラム連携、公開授業提供、WS等、区内イベントでの「雑がみさまを探せ！」啓発活動、環境月間連動キャンペーン (環境フェア・フェスタ、区民まつり等、リサイクルセンター講座等)
- ・区内小学校 (公立・私立) に於ける「雑がみさまを探せ！」啓発、回収体験、「こどもエコクラブ」活動との連携
- ・「雑がみさまを探せ！」回収啓発ボックス寄贈・設置実験 (区内の小学校、支所・公民館、図書館、リサイクルプラザ、商業施設 (ドラッグ、量販、ホームセンター、スーパー等))
- ・東京商工会議所、JC、女性会との連携、関連企業先での「ローテーション」回収運動 等々

キャラクター コラボレーションイメージ



あいりっすん

渋谷区PRキャラクター



公益財団法人
古紙再生促進センター

要・ロゴ使用許可申請